

上田市立美術館コレクション展

版表現の 魅力

石井鶴三

大版画

- 東山魁夷 - 池田満寿夫

村上早



2019年 9月14日(土) - 11月10日(日)

観覧料／一般 300(250)円、高校・大学生 200(150)円、小・中学生 100(80)円

※()内は20名以上の団体 ※障害者手帳携帯者とその介助者1名は無料

休館日／火曜日 ※10月22日(火・祝)は開館、10月23日(水)は休館

開館時間／9:00-17:00 (最終入場 16:30)

主催者／上田市(上田市立美術館)、上田市教育委員会



上田市立美術館

〒386-0025 長野県上田市天神三丁目15番15号

TEL 0268-27-2300 <https://www.santomyuze.com/>

間接的な刷りを介した「版画」は、古くから多くのアーティストを魅了してきました。

上田市立美術館コレクション展

「版による芸術とは何か」— 近代版画の創始者・山本鼎らが追求めた表現は、時代を経て脈々と変化しています。本展は、彫刻家・石井鶴三の「創作版画」、アーティストと刷り師が共同でつくる大画面の「大版画」、現代アートをけん引する村上早の「銅版画」など、当館所蔵の版画作品をご紹介します。大版画作品の中でも、日本画家・東山魁夷が奈良・唐招提寺から依頼を受け、10年の歳月をかけて奉納した「東山芸術の集大成」といわれる唐招提寺御影堂内の障壁画を1/3のサイズにした全長7メートルに及ぶ作品「濤声」は圧巻です。版種により、それぞれ違った魅力のある版画の世界をお楽しみください。

版 表現の 魅力



石井鶴三 《いへきかな》1970年
©Keibunsha, Ltd. 2019/JAA1900179

石井鶴三 (1887-1973)

生涯を通じて「立体の美」を追求し続けた彫刻家。挿絵・版画・水彩・舞台美術制作等、多岐にわたる分野で活躍。東京の自由学園で美術教師を12年、東京美術学校（現 東京藝術大学）の教授を15年、信州上田での彫塑講習会講師を46年にわたって務めるなど、教育者としても長年後進の育成に尽力。横綱審議委員や文化財審議委員などを通じ、日本文化の継承にも貢献した。



池田満寿夫 《宗達讃歌 (天)》1985年



村上早 《息もできない》2015年



村上早 《どく》2018年

村上早 (1992-)

群馬県高崎市生まれ。2010年武蔵野美術大学入学後から銅版画を始め、大学院在学中の2015年に「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞」優秀賞、「第6回山本鼎版画大賞展」大賞(当館で開催)、「トーキョーワンダーウォール公募 2015」トーキョーワンダーウォール賞など、国内公募展での連続受賞を機に注目を集める新進気鋭の銅版画家。

大版画

リトグラフ制作アトリエ「森工房」主宰で上田市出身の森仁志氏(1946-2014)が制作技術確立した、世界最大級のリトグラフ「大版画」。工房には、岡本太郎をはじめ、東山魁夷、池田満寿夫やカトランら国内外の著名な作家たちが訪れ、20年にわたって制作された39点全てが上田市立美術館のコレクションとなっている。

同時開催

山本鼎コレクション展示

当館の収蔵作家である、近代版画の創始者・山本鼎の作品、また多岐にわたる活動をご紹介します。



山本鼎 《漁夫》1904年

関連企画

ギャラリートーク

学芸員が展覧会をご案内します。

日時／9月29日(日)、11月9日(土) 13:30-14:30

会場／美術館2階展示室

参加方法／展覧会観覧券をお求めください。

銅版画家 村上早 クロストーク～金属に刻む版の魅力～

アーティストと学芸員が、作品の前で制作や表現について語ります。

日時／10月26日(土) 13:30-14:30

会場／美術館2階展示室

参加方法／展覧会観覧券をお求めください。



上信越自動車道「上田菅平I.C.」よりお車で約15分
北陸新幹線・しなの鉄道・上田電鉄別所線「上田駅」より徒歩約7分

サントミュージゼ 上田市立美術館
UEDA SANTOMYZE

〒386-0025 長野県上田市天神三丁目15番15号
TEL 0268-27-2300 <https://www.santomyuze.com/>